

JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

鉄道軽視・外注化の撤回を

6/16内房線（上総湊～竹岡駅間）で感電死亡事故



事故は変圧器の部品交換中に起こった

内房線・上総湊～竹岡駅間で6月16日、作業員の感電死亡事故が発生しました。犠牲になったのは28歳の作業員です。信号高圧配電線の引下線の取替作業中に電線が胸に当たって感電したとされています。

事故報告（速報）によれば、電車に電力を供給する饋電、信号高圧線ともに停電はシステムによる自動制御ですが、饋電は停電となった一方で信号高圧線は加圧状態のまま作業が行われていたとのこと。原因の詳細は調査中として明らかにされていません。

「なぜ信号高圧の遮断が行われなかったのか？」「なぜ加圧状態だと現場に伝わらなかったのか？」「検電や短絡接地器具の取り付けなどの状況はどうだったのか？」
——明らかにすべきことはいくつもあります。

業務外注化が根本にある

今回の事故の根本にはJRによる鉄道業務の軽視、業務丸ごと外注化と、それによる無責任体制があります。

JR東日本からすれば丸投げで外注化してしまえば、形式上は「何一つ責任がない」ことになり。しかし、外注会社では鉄道全体にトータルに責任を取ることにはできません。それ自身が鉄道業務の軽視です。

今回犠牲になったのは外注先のさらに下請会社の労働者でした。一方、事故報告では最も責任があるはずのJR東日本は名前さえも出てきません。一人の労働者の命が奪われているのにJRの責任は隠されています。

鉄道軽視の施策撤回を！

会社は外注化、統括センター化、業務融合・兼務化などを進めています。「鉄道を持つIT企業化」「鉄道部門4千人削減」を掲げ、「鉄道ありきで考えるな」「これからは価値創造だ」とおっしゃっています。

鉄道業務と現場労働者をないがしろにすれば、鉄道の安全は崩壊していきます。職場に必要なのは闘う労働組合です。外注化撤回、融合化・兼務化撤回の声をあげよう。